国際交流センターだより vol.15

2023年度 海外リサーチ・クラークシップ報告

2024年1月4日から3月5日まで、医学科2年生8名が海外の研究室に研究留学しました。日本とは全く違う環境で、海外の研究者たちと共に過ごした時間は、彼らにとってかけがえのない貴重なものとなったことでしょう。この体験を忘れず、今後の研究に活かし、また、他の学生や後輩とも、是非共有してほしいと思います。

2023.12.21の壮行会にて

留学報告

医学科3年　大平 雅也

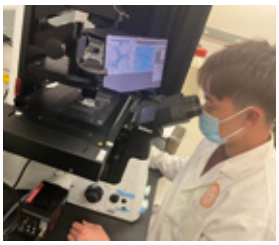
留学先：University of Texas Health San Antonio

私は、The University of Texas Health Science Center at San Antonioに派遣させていただきました。

研究に関しましては、成果主義ということに感銘を受けました。多くの研究者の方が、朝早くに来て同時進行で実験を行い、隙間時間には取得したデータの解析を行っておられました。そのため、私もそのように時間を有効活用して自発的に研究に取り組んでいました。

生活に関しては、滞在先のホストの方と研究室の先生方に支えられました。家事やTexasで注意すべきことを丁寧に教えてくださいました。また、人々との交流で感じたことは、Texasの方が親切だということです。困っていたら、助けて下さる方が多かったように思います。

今後の意気込みとしては、引き続き勉学と研究に全力で取り組み、今回の経験を活かしていけるように努めてまいります。

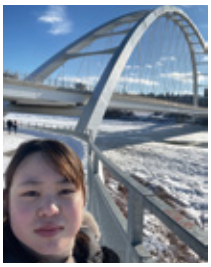


β-gal活性が上昇したglioblastoma細胞を顕微鏡で観察する様子

医学科3年　小西 菜々子

留学先：University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry

カナダ、アルバータ州、University of AlbertaのYokota Labでデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療であるエクソンスキップ治療についての研究を行いました。指導者の方は論文執筆前の忙しい中で、実験の手技やエクソンスキップ治療について丁寧に教えてくださり、これからの研究活動に役に立つことを多く学ばせていただきました。最終日にはラボミーティングにてプレゼンテーションの機会を与えてくださり、その準備を通してよりよいスライドの作り方も学ぶことができました。カナダで生活する中で自分の英語の拙さを実感し、英語学習へのモチベーションが更に上がりました。また、現地の人々と日本人の気質の違いを感じられて興味深かったです。実習で得た経験を生かしてこれからの医学の勉強や研究に励んでいきます。



ウォルターデール橋にて

医学科3年　伊藤 晴加

留学先：University of Leeds

私は、イギリス、リーズ大学のAstbury Centre for Structural Molecular Biologyで約2ヵ月間アミロイド凝集メカニズムに関わる研究を行わせていただきました。現地では議論を交わす場が非常に多く、日々理解を深めながら新しいアイデアを生み出す環境が整っていました。また、最先端の生物物理学的機械が揃っていたため、私が多くの機械を扱えるよう、現地の方がわざわざ実験のスケジュールを変更してくださりました。通常学部生を受け入れない研究室で計約15種類もの機械を扱わせていただいたことを非常にありがたく感じるとともに幸運なことだったと思っております。派遣に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。これからの研究も精進してまいります。

大学からの帰路にてラボのポスドクと

医学科3年　和出 陽南

留学先：University of Michigan Medical School

私は鎌田信彦先生の研究室で、口腔細菌の腸管異所定着について研究させていただきました。実験手技の習得のみならず、実験結果に対するDiscussion及びプレゼン作成の際に気を配らなければならない点についても学びました。また、講演会やラボミーティングにも参加し、自分の未熟さを思い知らされると同時に目指すものを見つけた機会にもなりました。今回の経験をじっくり振り返り、今後自分がどのようになりたいか、またその目標を達成するためにやるべきことを考えて行動に移していこうと思います。2年生という早い段階で海外研究を体験できたことは、非常に嬉しいことですし感謝しております。リサクラで得たことを日本での研究活動にも大いに活かせるように精進して参ります。このような貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。

ラボメンバーと

留学報告

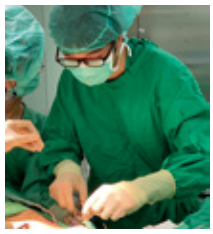
医学科３年　有野 公人

留学先：National Taiwan University

私はリサーチ・クラークシッププログラムにおいて、国立台湾大学附属病院外科部で腹腔鏡脾臓摘出術に関する臨床研究を行いました。私が臨床研究を始めるにあたって、台湾大学の楊卿堯 (Ching-Yao Yang) 先生は研究の基礎から親身になって教えてくださいました。また、他にも楊先生の手術見学をさせていただく等、貴重な経験もできて、将来のことについてより深く考える機会にもなりました。

病院での研究活動がなかった週末や祝日の日に、私は主に台北市内の観光に行っていました。台湾には様々な観光施設があって、色々なところに行くことができて楽しかったです。

最後に、本プログラムに携わっていただいた方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございます。

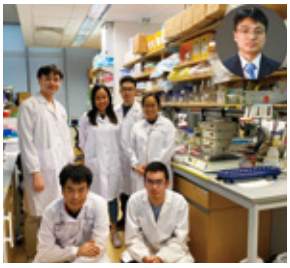


手術室で傷を縫合している様子

医学科３年　佐久間 隼人

留学先：National University of Singapore

私は National University of Singapore の Dr.Jiang Jianming の研究室にて約２か月間実習をさせて頂きました。想定外のことが多く起こった実習でしたが、ラボの親切な研究員の方々が必死にサポートしていただいたおかげで無事に実習を終えることができました。実習前まではミスをすることを恐れて自分の意見をあまり言わず、教官の方に頼りきりの研究姿勢でしたが、実習中は思い切って積極的にアイデアを出し、試行錯誤をする姿勢に変えてみたところ、自分ができないと思い込んでいたことも出来るようになりました。シンガポールでの暮らしも非常に刺激的で、休日はしっかりと外に出て休息をとることで、オンとオフの切り替えの大切さを学びました。このような貴重な機会を与えて頂いたリサーチ・クラークシップの関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



研究室にてラボのメンバーと

医学科３年　平岡 崇秀

留学先：KU Leuven Campus Kulak Kortrijk

今回海外で２ヵ月間実習を行ったことで他ではできないような貴重な経験を得ることができ、研究者としてだけでなく、人間的にも大きく成長することができました。日本人が周りにいない環境で長期間過ごすのは初めてのことだったので、実習前はとても緊張していましたが、実習先の方々がとても優しかったおかげで研究もヨーロッパでの日常生活も常に楽しめました。この２ヶ月間研究だけに没頭できたことで、幼い頃から抱いてきた医学研究への意欲がより掻き立てられ、これからもより真摯に研究に取り組みたいと思っております。今回の実習で関わった多くの方々への感謝を忘れずに、これからも立派な医師・研究者になるため、日々自己研鑽を重ねていきます。

ラボのメンバーと

医学科３年　森田 大智

留学先：National Taiwan University

私は台湾の National Taiwan University における胸腔内科教室で約２か月間勉強させていただきました。普段の学生生活とは異なる、世界の最先端である環境で１日のほとんどを研究に費やす生活は、私に多くの技術と知識を与えてくれました。また、台湾での生活は、日本とは異なる環境のもと、刺激にあふれ、異文化への理解を深める機会となりました。さらに、初めての一人暮らしは、私を精神的にも成長させてくれました。私は、本学薬理学教室の皆様、台湾の研究室の方々をはじめ、今回のプログラムにかかわったすべての人たちへの感謝を忘れずに、今回の留学で学んだことを生かし、チャレンジ精神を忘れることなく研究に従事し、医療人として成長し続けたいと思います。

派遣先の方々と交流を深めて

MESSAGE

医学部長　嶋 緑倫

今年度の海外リサーチ・クラークシップが無事に終了したことを喜ばしく思います。皆さんは事前に十分に準備をして留学に臨み、現地でしっかりと研究に取り組んでいただきました。さらに、海外の研究者と積極的に交流を深め、自らの新たな可能性を発見する機会になりました。レポートから海外リサーチ・クラークシップがいかに有意義なものであったかが伝わってきます。この経験をしっかり胸に刻み、皆さんの夢の実現に向けて前進してください。

生理学第二　教授
堀江 恭二

２ヵ月に及ぶ海外研修、お疲れ様でした。言語も文化も異なる環境下で、研究の一躍を担い、かつ、責任を持って役割を果たすのは、容易ではなかったことと思います。楽しい思い出や、ほろ苦い経験が交錯する中で、ひと回り成長してもう一度世界に挑戦したいと思われた方も多いのではないでしょうか。この経験で得たものを温めながら、これからの大学生活を有意義なものにしてください。皆さんのこれからの活躍を、応援しています。

未来基礎医学　准教授
森 英一朗

海外リサクラのプログラムが2023年度から再開になり、８名の学生がそれぞれの派遣先で実習に取り組みました。全員が無事に帰国して下さったことに、まず安堵しております。この経験が、今後のキャリアの中で活きてくることを期待しております。また、新規の派遣先研究室のご紹介や、事前トレーニングや事後のフォローアップでの御支援を頂いた関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。引き続き、より良いプログラムにするべく、取り組んで参ります。

国際交流センターだより vol.15

「Meet the President」を開催しました（1月23日）

理事長・学長　細井 裕司

1月23日、アメリカ・ドイツからの留学生2名を迎えて「Meet the President」を開催いたしました。この会は今回で2回目の開催で、本学の国際交流・国際理解を一層推進するとともに、留学生との懇親を深める場として実施しています。懇親会では、いちご大福がふるまわれ、各国の医学部事情や日本での生活について話を聞いたりと、なごやかな雰囲気の中歓談を楽しみました。

ミシガン大学のDavidさんは、本学とミシガン大学が協定を結んでおり日本の総合医療に興味があって来日したとのことです。また、ドイツ・ゲッティンゲン大学のMaxさんは、ドイツでは臨床実習先に海外を選ぶことができ、日本文化に興味があったため留学を決めたとのことでした。それぞれの学生が、本学で有意義な時間を過ごせることを願っています。

中央左がDavid、右がMax

David Sidhom（ミシガン大学）

（総合診療科　2024.1.15～1.26）

During my two-week rotation in Nara, I had the honor of meeting many fantastic people! Dr. Hiroshi Hosoi shared with me some of the many inventions he has created including a device to help those with hearing loss, which I believe will have a strong positive impact on the community. I was amazed by the innovation at the University as Dr.Toshihiro Ito shared a novel lozenge that can protect against COVID-19. It is clear that NMU focuses on advancing medicine with a forward thinking and creative approach. There is also a focus on creating partnerships in the community, creating strong relationships between doctors and the people they serve. I am grateful to have been trained by so many impressive individuals and to call them my friends!

Max Schmiedeknecht（ゲッティンゲン大学）

（循環器内科、消化器・代謝内科、腎臓内科　2024.1.15～3.8）

I deeply appreciate the warm welcome from Nara Medical University. It was a great honor to be invited to the "Meet the President" event. I listened to the history of Kashihara with gratitude and was intrigued by the recent research developments at Nara Medical University. These promise a strong impact on daily life, as the main goal of clinical research should be, including the cartilage-conducted hearing device for public facilities to communicate with hearing-impaired patients, developed by Prof. Hosoi, and the innovative SARS-CoV-2 protective candies introduced by Prof. Ito. The future development of the Nara Medical Campus is exciting, and I look forward to seeing the new site. I will happily recommend Nara Medical University to German students, doctors, and researchers. Thank you for this brilliant time! ありがとうございました。

プリンスオブソンクラー大学との協定締結

2023年4月のPSU一行の来学以来、教職員・学生の交流を促進すべく話し合いを続けてきました。その結果、2024年1月、両大学の学術交流発展にむけての協定締結に至りました。短期の留学先として興味のある方は、是非ご検討ください。

来日時の集合写真

令和5年度 第3回 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

令和5年度第3回　若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の2名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所　属（科 目）	職 名	氏 名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	尾崎　大輔
輸血部	診療助手	齋藤　健貴

大学院医学研究科博士課程を修了されました

大学院医学研究科博士課程　脳神経機能制御学　修了　Riju Dahal

After spending 4.5 years studying neurosurgery in Japan, I'm filled with gratitude as I prepare to leave. My time here has been life-changing, both personally and professionally. I've loved immersing myself in Japanese culture. From the beautiful cherry blossoms to the bustling energy of big cities, I've grown to appreciate Japan's way of life. The kindness and hospitality of the people here have made me feel at home, and I'm thankful for their warmth.

In my department, I've learned a lot. I've been lucky to study under brilliant neurosurgeons who have taught me to excel. Their guidance and the collaborative atmosphere have shaped me in professional and personal endeavours. Outside of my studies, I've enjoyed exploring Japan. Whether it's skiing/snowboarding, tea ceremonies or trying new foods, each experience has taught me something new about Japanese culture.

As I move on to the next chapter of my life, I'm grateful for the memories and friendships I've made here. Japan will always hold a special place in my heart, and I'll forever cherish my time here. Arigatou gozaimasu.

脳神経外科学　講師

田村　健太郎（現：奈良医療センター勤務）

Dr. Rizu Dahal は、本学で初めての日本政府奨学金留学生（国費留学生）として、2019 年 10 月に来日され、4 年間大学院生としてててんかん外科治療を学び、術中皮質脳波に関する研究で無事 Ph.D. を取得されました。4 年半分の奨学金獲得のための審査は大変でしたが、本学での経験が、

母国ネパールで苦しむ多くの難治てんかん患者を救うことにつながることを考えると、割に合ったと思います。今後の活躍に期待します。

「第 10 回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」（医学科 2 年生対象）を開催しました（1 月 22 日）

本学では、学部教育時から「英語で医学や看護学を学ぶ」機会の拡充を図るため、年に数回の英語セミナーを開催しています。

学生からは、「少し難しかった」という声も聞かれましたが、みんな真剣に講義に耳を傾けていました。

モントリオール大学（カナダ）

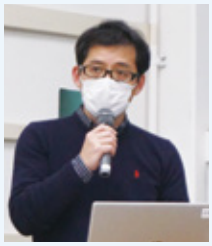
Associate Professor　Gareth Lim, Ph.D

It was an honor to be able to share my research group's work with you, and I hope that you gained an appreciation of the complexities involved in the growth and development of fat cells and how obesity develops. There is still a lot that we do not know in terms of how to treat obesity, and this is partly due to our poor understanding of the factors that influence the development of fat cells. However, we are slowly making progress. I hope that my presentation may inspire you to engage in obesity-related research in the future or pursue endocrinology as your clinical speciality.

It is important to also extend my sincere thanks and appreciation to Professor Shuhei Nakamura for the generous invitation to visit Nara Medical University, as well as the team in the Nara Medical University International Center for assisting with my visit and preparing for my lecture.

A career in medicine with the goal of helping patients is a great opportunity and aspiration, and I would like to wish all of you great success in these important and formative years during your medical training.

生化学　教授　中村　修平



モントリオール大学の Dr. Gareth Lim 博士には AMED interstellar initiative beyond グラントのサポートのもと行なっている共同研究の打ち合わせのために来学いただくことになっており、この機会を活用し、ご講演をお願いしました。最先端の研究成果をご発表いただき、学生にとっては大きな刺激になったのではないでしょうか。医学、生命科学分野での公用語は英語で、論文を読み書きするだけでなく、学会等では自身の研究を英語で発表し、かつ深いディスカッションができる能力が求められます。一朝一夕には身につかないので、日頃から意識してトレーニングすることをお勧めします。ちなみに私は留学前に好きな外国映画やドラマを毎晩英語字幕で繰り返しみて鍛えました。やり方は人それぞれなので、自分にあったやり方を見つけてみてください。